

中小企業論B		准教授 八木 孝幸	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目、会計ファイナ ンスコースの専門選択科目、 経営・経済コースの専門選 択科目 教職科目	科目ナンバリング	23222208 25320222

1. 授業のねらい・概要

統計によれば、日本の全企業数に占める中小企業の割合は 99.7%、全企業の雇用者数に占める中小企業雇用者の割合は 70.1%と、中小企業の問題は日本人にとっても身近な問題である。この『中小企業論』は、そんな日本人にとっても身近な問題である中小企業の問題を理解していこうとする講義である。

講義内容の詳細については「授業計画」の項にゆずるが、後期は主に「世界と日本における中小企業の歴史の変遷」について講義を行う予定である。

2. 授業の進め方

テキストは用いず、板書を中心に講義を行う予定である。資料の配布は適宜行う。

3. 授業計画

1. 世界における中小企業の歴史の変遷①（転換期）	10. 日本における中小企業の歴史の変遷⑦（変革期）
2. 世界における中小企業の歴史の変遷②（発展期）	11. 日本における中小企業の歴史の変遷⑧（サブプライムローンとは何か）
3. 世界における中小企業の歴史の変遷③（革命期）	12. 日本における中小企業の歴史の変遷⑨（サブプライムローン普及の理由）
4. 日本における中小企業の歴史の変遷①（誕生期）	13. 日本における中小企業の歴史の変遷⑩（サブプライム問題が日本に与えた影響）
5. 日本における中小企業の歴史の変遷②（高度経済成長期）	14. 日本における中小企業の歴史の変遷⑪（リーマンショック後の中小企業）
6. 日本における中小企業の歴史の変遷③（経済安定期）	15. 本講義の総まとめ
7. 日本における中小企業の歴史の変遷④（バブル経済期）	
8. 日本における中小企業の歴史の変遷⑤（経済停滞期）	
9. 日本における中小企業の歴史の変遷⑥（自立期）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義計画を参考に、次回講義までに参考文献などを読んで2時間以上の予習をしておくことが望ましい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施（あるいはレポート提出）の後、解答などを掲示板に掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

日本人にとって身近な問題である中小企業の問題について理解を深めた上で、議論が行えるようになることを目標としている。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験の結果（50%）及び授業への取り組み姿勢（50%）によって評価する。ただし、定期試験の結果が授業への取り組み姿勢の評価のいずれかが59点以下になった場合は、不可とする。

8. テキスト・参考文献

〈参考文献〉

- (1) 井上善海・木村弘・瀬戸正則編『中小企業経営入門』中央経済社，2014 年。
- (2) 関満博『日本の中小企業——少子高齢化時代の起業・経営・承継』中央公論新社，2017 年。
- (3) 高田亮爾・上野紘・村社隆・前田啓一編『現代中小企業論』同友館，2009 年。

9. 受講上の留意事項

本講義の履修に関して特に制限はないが、『経営学基礎』の単位が取得済みであることが望ましい。なお，座席表作成の都合上，履修希望者は初回より必ず出席のこと。